

横芝の碑 (その十八)

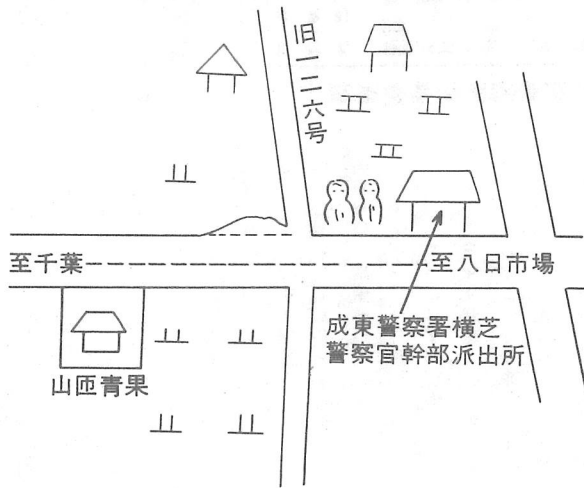
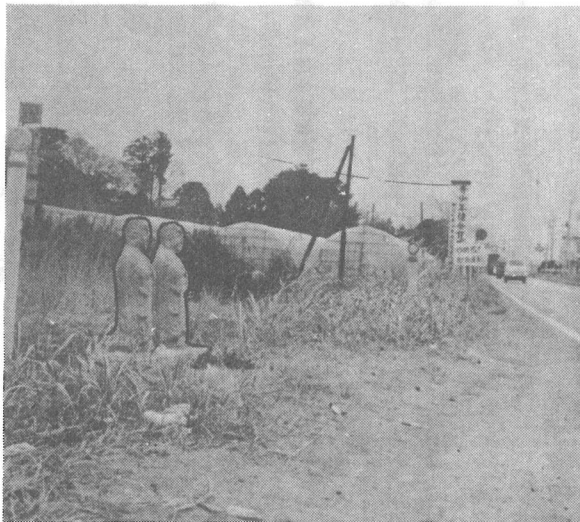
交通事故防止

悲願の地蔵様

一二六号線国道を、役場前から本町交差点に向って行きますと、交差点の手前約一〇〇メートルの所の左側に、道路に面して二体の地蔵様が建っているの気がつき

ます。このお地蔵様は、この附近の交通事故で命を奪われた若い従業員の追善供養と、交通事故防止の悲願を込めて、その主人の方が建立されたものだということです。

昭和四十四年十一月の或朝八日市場市武井青果店の従業員AさんとBさんは、昨日の午後東京神田の青果市場で仕入れた蜜柑を積んだトラックを運転して帰路につきました。昨日の夕方には買付けも済んでいましたが、夜道は混むからと、昨晩は東京に一泊して、今朝早く出発してきたのです。ところが、自分達の店まで後二十分足らずという横芝地先で、銚子方面から走って来たトラックと、殆んど正面衝突に近い状況で接触し、両方の車とも前部を大破し、AさんとBさんは即死し、相手の運転者も重傷という大事故が発生してしまつたのです。



Aさん、Bさんの御家庭の悲しみは勿論だつたと思いますが、大切な従業員を一挙に二人も失つた武井青果店主の痛恨と悲涙は大変なものだつたようです。そして、その時のこと等をこんなふうに話していました。

「思い出すなといわれても忘れられませんよ。昭和四十四年十一月二十六日午前六時半頃です。夜道は混むし、ライトの光等で事故が起きてはいけなから、一晚東京へ泊つて翌朝帰つて来いと言つてやつたのが仇になつたと思うと本当に可愛そうでなりません。一時は自動車をみるのさえ嫌になる位でした。時々死んでしまつたことを忘れて二人の名を呼び、ハッと気がついて泣いたりしたこともあり

ました。素直な気だてのいい若者だつたんですよ。あのお地蔵様もすぐ建ててやりたかつたのですがいろいろ手続きが面倒で遅れてしまいました。このお地蔵様を建てたからといって、この悲しみが消えるものではありませんし、あの二人が戻ってくる訳でもありません。でも何かの形で二人の冥福を祈つてやりたいんです。そして、その原因が交通事故という災難であると思うと他の人も絶対にこの悲惨な事故を繰返さないで欲しいという心がいっぱいです。相手の運転者の方は今では元気に働いてい

るということです。何よりのことと喜んでいますが、語り続ける武井青果店主の声に時々嗚咽が加わるのが私の胸には突刺るよう感じられました。

写真、並んで建っているのがそのお地蔵様で、足元にはよく切花やお線香が供えられています。並んで見えるビニールハウスは本紙十年一昔(四十六年六月)で紹介した場所です。ハウスの外れには「やめろ飲酒運転」等という交通安全の標識が見えています。車が走っているすぐ向うが本町交差点です。(本稿取材に当り、交通安全対策係海保主事並に八日市場市武井青果店主の協力を得たことを附言します。)

標準農業労賃きまる

農業労働賃金の標準額が、去る三月十八日山武郡内の農業委員長会議で次表のように決まりました。

	男	女
田 植	2,800円	2,700円
畑 作 業	2,200円	2,100円

水田耕起 3,500円 (10 a 当り) 人夫賃耕料
耕転深度15cm以上
機械田植 3,800円 (10 a 当り) 人夫賃作業料
(苗費別)

② 上記は旧当りの賃金で実労時間は8時間とする
賄は2回とし賃金には含めない